

令和元年度 第1回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

1 日 時 令和元年（2019年）7月8日（月）午後1時30分～3時30分

2 場 所 長野県白馬高等学校会議室

3 参加者 10名（下川委員代理者：藤本元太白馬村副村長）

この他、長野県教育委員事務局高校教育課2名

白馬・小谷両村関係者6名

白馬高等学校職員4名



4 次 第

（1）開会の言葉

（2）長野県教育委員会あいさつ（駒瀬高校教育課高校改革推進係長）

（3）白馬高等学校長あいさつ（臼井校長）

（4）委員の自己紹介

（5）報告事項

① 学校の現状報告（臼井校長）

② 白馬山麓事務組合白馬高校支援係からの報告（平塚総括支援局長）

【報告についての質疑・応答】

<伊藤委員>

- 入学時のアンケートだけでなく、卒業時にも期待どおりの高校生活だったかアンケートをしていただきたい。

<臼井委員>

- 卒業学年で実施している。ここの資料にはまとめていないが、今後、報告させていただきたい。

<岸委員>

- 入寮についての要件はどのようになっているのかお聞きしたい。

<臼井委員>

- 合格者に対し、初年度は余裕があったが、現在はキャパシティの関係で、大糸線等で通学可能な人は通ってもらっている。何キロ以上というような規定はない。

<横沢委員>

- 少子化の中で県内外の生徒にも、小谷村、白馬村、大町市、長野県の魅力を若い人たちにうまく発信できたらと思うので検討していただきたい。若者の発想で、何かできるような気がしてならない。

<伊藤委員>

- 生徒はすごくいいことをやっている。例えば文化祭の出し物、特に八方太鼓やダンスパフォーマンスなどもっと多くの住民の方に知ってもらいたい。寮生のイベント企画も素晴らしい。クラブのようなかたちでプロモーションチームを作って発信できないか。ケーブルTVの活用も考えてみたらいかかが。

<岸委員>

- 高校との連携や連絡体制はどうなっているのかお聞きしたい。

<臼井委員>

- 寮と学校の連絡会を毎月1回行っている。

(6) 審議・確認事項

① 令和元年度白馬高等学校の学校経営計画について（臼井校長）

- ・学校経営方針
- ・組織編成
- ・教育課程

→ 令和元年度白馬高等学校経営計画を承認

(7) 意見交換（今年度の白馬高等学校の教育活動や学校運営協議会の活動などについて）

＜武田委員＞

- 小谷中からの入学者が増えた理由は何か。子どもたちや保護者の考え方が変わったのかお聞きしたい。

＜加藤委員＞（小谷中学校長）

- 昨年の会議を受けて校内の体制を見直し、先生方に意識を変えていただいた。以前は大規模校に行きたい生徒が多かったが、今年はそうではなかった。また、白馬高校が地域連携を重視していることが中学校の取り組みと合致し、連続した深い学びができるということが分かった点にあると考える。

＜武田委員＞

- 美麻小中学校では大人数が苦手という子もいる。小中高と学びがつながれば自信が持てるのではないかと考える。

＜岸委員＞

- 入学の動機について小谷中の話だが「英語が大変だから行かない」から「英語を学習したいから行く」が変わった。アンケートで「将来地元で仕事をしたい」というのはうれしい。白馬高校を受験しない理由が「偏差値が低いことが気になる」という声もあるがいかがか。

＜臼井委員＞

- インターネットを見れば何の根拠もなく低い数値が出ている。生徒数が少なく大学進学数が少ないからそうなるのだろうが、本校では生徒をはかるモノサシが違う。実際の教育活動を見ていただきたい。

＜横澤委員＞

- 大学の合格者数が一気に増加している。長男とか次男とか家族構成などに関わるのかお聞きしたい。

＜臼井委員＞

- 手持ちに資料がないので答えられない。

＜宮嶋委員＞

- 小谷小学校との連携についてだが、「塩の道遠足」や「小谷っ子タイム」という郷土を知る行事があって保護者も参加している。ここに高校生が入って楽しくかかわれば、距離も近づき印象も変わり、良い刺激になるのではないと思う。

＜伊藤委員＞

- 文化祭の出し物などを見て、冬の外国人向けのレセプションなどを企画してもいいのでは。寮生が週末にステイまたはビジットできるホストファミリーを募集してはどうか。集団生活でのストレス解消にもなるのではないと思う。

＜加藤委員＞

- 小谷中学校では進路選択を多様にしようと理工系の学習に取り組んでおり、興味のある生徒もいる。白馬高校の普通科の多様な選択科目の一つに理工系科目を設定できないか。

- SDG sは小谷中学校でも夏から取り組むところで、白馬高校の取り組みと共有してふくらませたい。

＜臼井委員＞

- 今は私立文系にシフトしているので理工系はカリキュラムの一番弱いところ。なかなか難しい。
- SDG sは学校だけで完結させるものではなく広がりがある。脱プラスチックの取り組みなど、白馬バレー全体へ広げ、地域を巻き込んだ思わぬ展開を期待している。

＜中村委員＞

- 地元の高校として成り立っていただくためにいろいろな支援をさせていただいている。事務組合としてはきちんとした選抜をしたい。寮については厳しい運営をしていることを理解していただきたい。

＜藤本委員＞

- 運営サイドから発言すると寮が負担になっている。一部に「志」の部分が足りない生徒、集団生活になじめない生徒がいる。全国募集の他校の例を参考に体験入寮や面接を検討中である。

＜白戸会長＞

- 寮は予想を越えてたくさんの生徒が来たということと、他方で地元生徒もたくさん集めたいという難しい問題がある。重要なことなので今後ともここでご意見を交わしていただきたい。
- 白馬高校が指定された現在の高校改革推進事業は、もともと大学でのCOCやその後のCOC+が高校に降りてきたもの。今後、地方創生は高校や中学校をターゲットにしてきている。これまでのスーパーサイエンス、スーパーグローバル（今はスーパーグローカル）をすべて切り替える流れだ。地方定着を目指す仕掛けで、地方が減じる危機感から生まれたもの。白馬の地元の力量が評価され、白馬高校が選ばれたのだろう。生徒たちが地元に戻ってくるためには、卒業生のフォローアップも必要だと考える。
- 今後の活動について意見があれば、私や学校に申し出ていただきたい。

(8) その他

- 今年度の学校運営協議会の開催は3回。第2回は11月、第3回は2月を予定。

(9) 閉会の言葉